

産業安全部会 安全管理活動分科会

会場名 名古屋市公会堂 4階ホール（28ページ交通案内⑦）名古屋市昭和区鶴舞1-1-3

最寄駅 JR中央本線「鶴舞駅」、地下鉄鶴舞線「鶴舞駅」

10月30日(木)のプログラム

9:30開始

1 「風化防止看板」による予防安全活動

東日本旅客鉄道㈱大宮工場
総務課車両技術主任

遠山 栄一

過去の災害事例や「ヒヤリハット」リスクアセスメントを継続的に活かしていくために、「風化防止看板」を掲出して予防安全活動を推進しているのを報告する。

9:55

2 形鋼のルール遵守活動（己適一声・一品入魂）

JFEスチール㈱西日本製鉄所倉敷地区条鋼部形鋼工場
マネージャー

永松 勝之

職場と管理者が一体となり、ルール遵守の仕組みづくりや設備改善で仕事の定石を身につけ、どんな場面でも正しく対応できる人づくりを目指した活動事例。

10:20

3 大型建設プロジェクトのリーダー論

JFEエンジニアリング㈱リサイクル発電作業所
専任安全衛生管理者

久保敬之助

大型建設プロジェクトでは、強いリーダーシップが求められる。ルールを明確にし、守る制度をつくり、安全な職場風土を構築する指導体制と指導力が必要。

(10:45～10:55休憩) 10:55

4 モデル職場を目指して

日本貨物鉄道㈱関東支社川崎車両所
車両技術主任

荒井 輝男

安全管理特別指導事業場の指定解除に向け、車両所全体で取り組んだ環境改善をはじめとする安全推進活動の具体的な内容を発表する。

11:20

5 IT利用による安全衛生活動の推進

日本IBM本社事業所安全衛生産業保健
安全衛生プログラムマネージャー

山室 栄三

データベースを活用した社員、ライン、スタッフ等の各階層別の自主点検、教育、報告等の安全衛生活動推進事例とその効果の紹介。

11:45

6 短期間に管理体制を確立し活性化された事例

荏原テクノサーブ㈱社会環境部課長

小島 明

会社創立30年、安全管理のリニューアルを、アウトソーシングを併用して管理規定等の改訂等と全社員への教育実施により、短期間に多大な成果を挙げた例。

(12:10～13:10昼休み) 13:10

平成15年度 工夫・改善・活動事例コンクール 安全衛生活動部門優良賞作品発表

14:10

産業安全部会 安全管理活動分科会

14:10

7 パートと一体となった安心快適職場の構築

出光興産(株)愛知製油所
品質管理課 上田 謙介

試験分析業務のパート移行に伴い、経験の浅い人でも安全に安心して試験ができる基盤づくりを目指し、展開している種々の安全活動を紹介する。

14:35

8 得意先構内での安全作業を目指して

デンソー構内作業安全衛生協議会
副会長 野々山好一

多業種の工事業者で組織している協議会が進めた災害低減活動について、事例を折り込みながら「過程と成果」を紹介する。

(15:00~15:10休憩) 15:10

シンポジウム 就業形態の変化と安全管理

講師	セイコーエプソン(株)地球環境・安全推進室安全推進部長	遠藤 稔雄
	白鷗大学法学部教授	畠中 信夫
	住友金属工業(株)人事労政部長兼安全・健康室長	福成 雄三
助言者	厚生労働省安全衛生部安全課主任中央産業安全専門官	浅田 和哉
司会	中災防常務理事	木村 嘉勝

17:00終了

10月31日(金)のプログラム

9:30開始

9 “危険ゼロ”を目指し安全先取り活動の展開

三協アルミニウム工業(株)福光工場
総務課課長 館田 清志

危険の一掃を目指し、安全先取り提案活動、自己作業の危険診断、職場巡視を柱に、危険の低減活動を進めているので紹介する。

9:55

10 グループ企業をあげての安全衛生活動

トヨタ車体(株)本社・富士松工場安全衛生部
主査 広井 正和

全国でも例の少ないグループ企業の活動である全豊田安全衛生研究会(トヨタ自動車を含む14社で構成)50年の活動成果と今後の目指す姿について述べる。

10:20

11 我が社の労災防止活動(警備員対象)について

東海ビル管理(株)本社顧問(研修担当) 石井 衛

ハインリッヒは、不可避な災害は2%に過ぎないと提言。ここに労災事故を減少させる人的努力の余地と希望がある。独自で取り組んでいる具体的事例を紹介する。

(10:45~10:55休憩) 10:55

講演 安全配慮と法的責任

弁護士 高野 真人

(12:05~13:10昼休み) 13:10

12 白紙から築きあげた安全管理の仕組みと活動

東日本旅客鉄道(株)新津車両製作所
計画部長 佐藤 勝敏

JR初の製造業参入により、安全管理面でも白紙からスタート。全員参加型の危険感覚醸成、専門部会、安全性評価、MS構築等の改善活動による労災防止を推進。

13:35

産業安全部会 安全管理活動分科会

13 : 35

13 安全G S活動（安全管理活動への新たな取り組み）

ユニバーサル造船株津事業所

環境・安全衛生室室長 藤本 克巳

従来、単発的な活動になりがちであったが、年間を通して継続的かつ全員参加型の取り組みとして、自ら定めた目標に対する達成度を評価・見直す活動を実施した。

（14 : 00～14 : 05休憩） 14 : 05

講演 企業は震災にどう備えるべきか

神戸大学都市安全研究センター都市マネジメント研究分野教授 室崎 益輝

15 : 15終了

産業安全部会 機械・設備等の安全分科会

会場名 名古屋市中小企業振興会館第2ファッション展示場（29ページ交通案内⑧）

最寄駅 地下鉄桜通線「吹上駅」 名古屋市千種区吹上2-6-3

10月30日(木)のプログラム

9 : 30開始

1 床面樹脂加工考案による転倒防止

日産自動車株九州工場

第一製造部第一組立課工長OB 上野 寛治

職場のヒヤリ体験を調査する中で、慢性化している滑るに対する要因を検証し、床面の加工方法を考案、対策を実施することで重大災害へつなげる要因を撲滅。

9 : 55

2 工事用車両の保守点検における安全度向上について

東海旅客鉄道株東海鉄道事業本部

美濃太田工務区施設技術主任 西野 康平

保守点検時において、車体の下に潜り車輪とレールの間に手をはさみ労働災害が発生する危険があるので、絶縁測定棒を製作、使用し、安全度を向上した。

10 : 20

3 不安全作業の分析と改善による本質安全化

北海道石油共同備蓄株北海道事業所

安全防災課直長補佐 上田 秀春

「現場不安全作業の分析と改善」という、当所独自の安全活動により、安全で安心して仕事ができる職場づくりを実施した事例を報告する。

（10 : 45～10 : 55休憩） 10 : 55

4 変電所受電設備点検時の墜落事故防止策

東日本旅客鉄道株長野支社

長野電力技術センター電気技術係 西村 一実

電気変電所受電点設備は点検義務がある。特別高圧受電点は高所のため、点検は梯子作業で行っていた。今回、点検台を設置し、墜落事故防止を図った。

11 : 20

5 トンネル内事故時の早期復旧について

東日本旅客鉄道株東京支社

東京電車線技術センター電気係 猪又 健司

当管内では、総武横須賀・京葉・東海道路貨物線のトンネル内電車線を保守している。トンネル内支持金具落下時の復旧工具の改良と開発を行った。

11 : 45

（13）

産業安全部会 機械・設備等の安全分科会

11:45

6 機械の包括的な安全基準指針に関する研究

(株)日本自動車工業会安全専門会議委員

(株)小糸製作所安全衛生環境推進室主管 小澤 正幸

「機械の包括的な安全基準に関する指針」への各社の対応状況・問題点等の調査を通じて、指針の「安全化の手順」をユーザーの立場から提言としてまとめたもの。

(12:10~13:20昼休み) 13:20

平成15年度 工夫・改善・活動事例コンクール 安全・衛生・快適考案部門金賞作品発表

(14:40~15:00休憩) 15:00

シンポジウム 新しい安全装置類の有効性とその活用

講師 本田技研工業(株)人事部安全衛生管理センター技術主幹 茅根好美
(株)ブリヂストン安全衛生管理室長 水野恒夫
ほか 電気制御機器関係メーカー
司会 中災防技術支援部上席専門役 糸川壯一

17:00終了

10月31日(金)のプログラム

9:30開始

7 重量物取扱作業の改善による労働災害防止

東海旅客鉄道(株)関西支社
大阪第三車両所車両係

石田 裕之

人力に依存していた台車部品の運搬方法を移動方向と移動手段に注目し、改善を行った。その結果、作業負荷の大きい重量物取扱作業をなくすことができた。

9:55

8 クレーンフック外れ止め装置の開発

(株)シーテック電力本部送電部工事第一課長

玉田 次郎

クレーン作業時に、フックに外れ止め装置があるにもかかわらず、玉掛けワイヤが外れることがある。この原因の究明と外れ現象を防ぐ装置の開発を行った。

10:20

9 スノープロ 調整治具の開発

東日本旅客鉄道(株)
新前橋電車区車両技術係

片折 暁伸

スノープロの高さは、一定の範囲に調整されている。従来の調整治具は、不安定で安全性に欠ける。そこで、油圧式で安定性のある調整器を開発した。

10:45

10 分割型簡易昇降式移動足場の開発

東日本旅客鉄道(株)
仙台建築技術センター施設技術係

今野 聡

駅ホーム等の小規模狭隘箇所での作業は、列車運行等により制約が多かった。これらを解決し、安全で機動性のある分割型簡易昇降式移動足場を開発を行った。

(11:10~11:20休憩) 11:20

講演 風力発電の現状と新世紀の風力戦略

足利工業大学教授 牛山 泉

12:30終了

産業安全部会 ヒューマンファクター分科会

会場名 鯉城ホール(伏見ライフプラザ5階 28ページ交通案内⑨) 名古屋市中区栄1-23-13
最寄駅 地下鉄東山線または鶴舞線「伏見駅」

10月30日(木)のプログラム

9:50開始

1 鉄道沿線における安全作業の推進

東日本旅客鉄道㈱八王子支社
八王子信号通信技術センター電気技術係

伊世 茂樹

列車が頻繁に走行する鉄道沿線の近傍で、いかに安全に作業を行うか、どう安全を確保していくか、決められたルールを確実に実行するよう対策を展開。

10:15

2 “笑い”を取り入れた安全衛生教育

東ソー物流㈱品質・環境安全課

山中 優

安全衛生教育を効果的に行うことを目的に、講義に“笑い”を取り入れた。指差呼称を職場に普及させた事例を中心に発表する。

10:40

3 作業用動力車の安全運転対策の樹立

東海旅客鉄道㈱
新幹線鉄道事業本部浜松工場車両係

永井 進也

フォークリフト災害撲滅のためにスタートしたプロジェクト活動は、実績とともに拡大展開し、浜松工場社員と協力会社社員950人で安全対策を樹立した。

(11:05~11:15休憩) 11:15

4 傷害事故防止「たとえ慣れた作業でも」

東日本旅客鉄道㈱銚子運転区運転士

浅見 雅之

小集団活動の一環として、傷害事故防止を呼びかけるビジュアル作品を作成した。メンバー全員の熱意と演技力で安全風土の向上に寄与できたと思う。

11:40

5 安全の5S活動とバイオリズム

西部石油㈱山口製油所製造部部長 菅原 一行

労災ゼロを目指し現在、安全の5S活動を展開している。この活動のうち、安全の躰において、バイオリズムを危険予報として利用している事例を紹介する。

(12:05~13:10昼休み) 13:10

第15回安全衛生教育ビデオコンクール表彰式および発表会

(15:10~15:20休憩) 15:20

講演 心の管理不全とヒューマンエラー

筑波大学心理学系教授 海保 博之

16:45終了

10月31日(金)のプログラム

9:45開始

6 労働集約型作業場における災害、疾病防止

トヨタ自動車(株)堤工場
塗装部第二塗装課GL 大日方 誠

労働集約型作業場における新人、応援者の心の負担、体の負担を考慮し災害、疾病を起こすことなく作業に従事できるようにした現場の工夫を紹介する。

10:10

7 触車事故の撲滅に向けて

四国旅客鉄道(株)
高松保線区施設技術主任 梶野 一也

軌道工事および軌道保守作業における触車事故を防止するため、当区で作成した「列車見張員の実施マニュアル」を有効活用し、事故の撲滅を図っている。

10:35

8 デリベントファン清掃作業の安全と効率化

近鉄ビルサービス(株)
本店営業部第二グループ管理営業第三課 鶴本 欣也

デリベントファンの清掃作業は、高所作業と出入車両の両方に危険性の高い作業であるが、清掃器具関係を改善することで安全と効率化を図ることができた。

(11:00~11:10休憩) 11:10

講演 安全運航とCRM訓練—事故防止への新たなアプローチ—

(株)日本エアシステム乗員室路線訓練部 CRM推進グループ
A300-600型機機長 栗山 正樹

(12:20~13:20昼休み) 13:20

9 ヒヤリ・ハットを活かした事故防止の取り組み

東日本旅客鉄道(株)八王子支社
甲府車掌区車掌 浜 智明

甲府車掌区では、事故を防ぐために、ヒヤリ・ハットを活用して、ヒヤリ・ハット集の作成や危険予知型の掲示物の活用等、工夫をした取り組みを行っている。

13:45

10 安全教育の充実を図って

東日本旅客鉄道(株)仙台支社
仙台総合車両所輸送管理科車両技術主任 松田 安弘

安全は終わりのない永遠のテーマである。生きた車両を扱っている職場の安全教育マニュアル、要注意箇所マニュアル作成について発表する。

(14:10~14:20休憩) 14:20

講演 人間行動に起因する事故の防止システムの考え方

中央大学理工学部教授 中條 武志

15:30終了

産業安全部会 交通安全分科会

会場名 愛知県勤労会館講堂（28ページ交通案内④）名古屋市昭和区舞鶴1-2-32
最寄駅 JR中央本線「鶴舞駅」、地下鉄鶴舞線「鶴舞駅」

10月31日(金)のプログラム（この日のみの開催）

9：30開始

1 交通事故防止のためのエゴグラム活用

日本オーチスエレベータ(株)
営業本部安全推進部

田中 聡治

社内交通事故を削減するため、運転者のエゴグラム（自己の性格特長判断）を元に、グループリーダーと運転者との個別面談を通じ、交通事故防止に活用。

9：55

2 交通事故撲滅活動

福島総合警備保障(株)
原町支社警備課主任

佐藤 功一

職場全体での交通安全意識の定着とセーフティードライブの習慣化により、交通事故の撲滅を図る。

10：20

3 職場の交通安全運動について

中電静岡工管(株)
警備部浜岡事務所担当部長

秦 道雄

職場の交通安全運動について、各人から通勤途上の危険箇所を抽出してもらい、危険を回避する自衛策を講じて、交通事故防止に努めた。

10：45

4 継続を合言葉にさらなる交通事故防止

摂津郵便局総務課課長代理
(前香芝郵便局総務課総務主任)

白神 毅

交通事故防止対策には「絶対」という特效薬はない。だが、乗務者のリーダーが継続的に乗務者をリードすれば、おのずと限りなくゼロに近づくのである。

(11：10～11：20休憩) 11：20

講演 Mr.ル・マンの自分を守る運転術（仮題）

(株)オートエクゼ 元マツダドライバー 寺田陽次郎

12：30終了

運転者みな目からウロコが落ちる話題満載

中災防新書 なぜ起こす交通事故 —運転席の安全心理—

●小林 實著 ●新書判 208ページ ●定価：本体900円＋税

お申込み・お問合わせは… 中央労働災害防止協会 普及事業部業務管理課まで ホームページアドレス
TEL03-3452-6401 FAX03-3452-2480 <http://www.jisha.or.jp/>